

1 山梨県内公共図書館の概況(平成25年度)

市町村立図書館の建て替えに関する動きとして、山梨市では建設予定地の旧市役所本庁舎に入居していた企業との明け渡し交渉が和解したことから、平成25年度中に解体工事、平成26年度に本体工事を完成させる予定だったが、2月の選挙で当選した新市長が新図書館建設を中止し、既存施設を活用することを表明した。北杜市では、平成25年3月に完成した多目的施設「北杜市甲斐駒センターせせらぎ」に、むかわ図書館が移転した。県内随一の米どころであり、樹齢2000年の「山高神代桜」があることから、米と桜の資料の収集に力を入れている。

市町村立図書館の主な動きとしては、甲府市では、公民館図書室へ司書を派遣し、室内のレイアウトや蔵書内容の見直し作業等の整備を始めた。市立図書館の分館的役割を担わせることを目指している。都留市では、子ども読書活動支援事業として、利用案内、推薦図書リスト、図書カード、利用登録申込書等を詰めた図書館バッグを、新小学1年生に配布した。笛吹市では、10月に図書館協議会が発足した。北杜市では市立学校図書館の電算化を行い、公共図書館とのシステム連携を進めている。運用開始は平成26年4月を予定している。中央市では、職員が選定した本80冊を市内の中学1年生の教室に学級文庫として貸し出す「中1ブック便」を始めた。富士山の世界文化遺産登録を受け、韮崎市では富士山資料コーナーの設置、甲斐市では写真コンクール入選作の展示、山中湖村では「富士山世界遺産情報局」を開設した。

県立図書館では、平成24年11月の開館からの入館者数が、5月に50万人、11月に100万人を達成した。入館者50万人を年間目標としていたが、目標をはるかに上回る入館者数となった。これまで阿刀田館長による連続講座や出張トーク、図書館協力員や高校生との集い、館長の半生を振り返る特別展のほか、館長企画による鴨下信一氏や林真理子氏の講演会を開催した。このほかにも様々な団体と連携しての朗読会やセミナー等、多くのイベントを開催した。開館1周年記念事業として、浅田次郎氏を講師に迎え「読むこと書くこと生きること」と題した講演を11月17日に開催し、400名以上が参加した。富士山の世界文化遺産登録に際しては、県の報告会がイベントスペースで行われたのを受け、関連資料展示や県政ニュース上映会を開催した。

「平成25年度関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会」が県立図書館を会場に2日にわたって開催された。「地域の中の図書館」をテーマに、大串夏身氏による基調講演「知的創造と地域の仕事・生活に役立つ図書館に向けて」のほか、パネルディスカッション「地域に交流とにぎわいを生み出す図書館の役割」、2つの研究発表、阿刀田高県立図書館長による講演「地域に必要とされる図書館とは」が行われ、県内外から208名が参加した。

◆図書館設置率 〈平成 26 年 4 月 1 日現在〉
 市区立図書館 100% (全国平均 98.5%)
 町村立図書館 50.0% (全国平均 53.9%)
 * 全国平均の数値は『日本の図書館』2013 年調査集計結果

◆図書館設置市町村〔20 市町村〕

甲府市	上野原市
富士吉田市	甲州市
都留市	中央市
山梨市	市川三郷町
大月市	身延町
韮崎市	南部町
南アルプス市	昭和町
甲斐市	富士河口湖町



図 1 県内図書館設置市町村